おいでん・さんそんSHOW

「まちとむらをつなぐ」おいでん・さんそんセンターの活動をご紹介！

10月号
2016.10.28発行



空き家活用で地域をつなぐ～家主さんの声

山村地域で増加している空き家。活用して移住者を迎え、地域をつなぐのか、放置して地域を諦めるのか。選択が問われています。活用を選択された3人の家主さんを取材しました。

思ったより簡単に賃貸契約できました。

大島正治さん【旭地区】



旭・足助
下山
ASAHI・ASUKE
SHIMOYAMA

「楽しいよ～。朝来ると子どもが出てきて迎えてくれる。かわいいよ」。空き家を貸した今でも、敷地内にある田畑や倉庫に行くために家の前を通る家主・大島正治さんは満面の笑みでそう語ります。築１２０年を越える正治さんの生家は町内でも特に高い場所に位置し、行き来に急な坂を上り下りする必要がありました。高齢になると不便に感じることが増えると危惧し、3年半前に他の場所に新築したそうです。町内では5年ほど前に、空き家情報バンク制度を通じて移住して来た家族がいて、それを知っていた正治さんは「いずれ空き家情報バンクに登録しよう」と考え、暇な時間を見つけては片付けをする日々を続けました。２年が経ち、もうすぐ片付けが終わるという目途がたった平成２７年９月、空き家情報バンク制度に登録をしました。登録の際に必要となる申請書は、支所の担当者と内容を確認し合いながら作成したため「苦ではなかった」と正治さんは言います。申請からほどなくして、入居を希望してきたのは、町内出身で奥さん、子ども2人のいるUターンの男性。正治さんも近所の人も、幼い頃の彼を知っていたため、地域面談はとても和やかな雰囲気で、満場一致で入居してもらうことに決まったそうです。

賃貸契約は初めての経験でしたが、「市と協定している宅建協会が作成した書類に、目を通して印鑑を押すだけだったから悩むことなかったよ」と正治さん。「もし貸さずに家が傷んでいくのを見るのはさみしかったと思う。住んでもらって、良い気持ちだよ」と、晴れ晴れとした表情です。



入居した夫婦と談笑する大島さん

こんにちは！私があなたの地区の中山間地在住職員です！

豊田市は、中山間地で暮らしながら市職員として支所で働く制度を導入しています。旭、足助、稲武、小原、下山の各支所で働く中山間地在住職員６人を毎回ご紹介します。

第１回 旭支所 弘中陽介さん（ひろなかようすけ）



前職は建設コンサルタントで野生動植物の調査（山に入ってクマの足跡を探したり、川に潜ってイワナを捕まえたりする仕事）をしていました。仕事場はほぼ中山間地域でしたので、荒廃する森林や河川、集落を見ながら、自ら山に住んで課題解決に取り組んでみたいと考えていたところに、中山間地域在住職員の募集を知りました。

旭地区の笹戸町に移住して半年、地域の皆さんにあたたかく受け入れて頂き、消防団活動や道路の草刈り、地域のお祭りなどを楽しんでいます。これから取り組んでみたいことは色々ありますが、まずは旭地区の文化や自然を学び、住民のひとりとして地域の課題を共有するところから始めたいと思っています。

プロフィール

愛知県半田市出身。３８歳。妻と子ども２人、家族４人で新潟からＩターン。小型哺乳類と水生生物（魚類・底生動物）の調査分析が得意。趣味は古流剣術と陸産貝類の採集。イノシシを１頭獲るのが今年の目標。

イベント情報

第５回いなかとまちの文化祭

一緒に暮らしの豊かさの種蒔きをしませんか？

- 日時：2016年11月20日（日）10:00～16：00（雨天決行荒天中止）
- 場所：T-FACE B館1Fシティプラザ
- 内容：●こころを耕すくらしのマルシェ・豊田の農家の野菜や加工品、焼き菓子、五平餅等飲食物販売※とよたエコポイントで購入可能
●ステージ＆ワークショップ・いなかとまちのシンポジウム・豊田の森から切り出した丸太切り体験・Star☆Tのもんぺファッションショー・山里ミュージシャンのライブ・山里合唱団こだまの合唱・郷土芸能「棒の手」
- 主催：いなかとまちの文化祭実行委員会
- 構成団体：とよた都市農山村交流ネットワーク、NPO法人とよたエコ人プロジェクト、㈱こいけやクリエイト、おいでん・さんそんセンター、その他個人有志
- 共催：豊田市中心市街地まちなか宣伝会議
- 協力：愛知県交流居住センター、豊田まちづくり株式会社、豊田市
- 問合：いなかとまちの文化祭実行委員会事務局　坂本
TEL:0565-50-5684（NPO法人とよたエコ人プロジェクト）

30周年記念式典・公演萩野子供歌舞伎

足助地区の萩野小学校では、毎年、高学年が学芸会で子供歌舞伎を上演します。昭和62年から始まり、今年は30周年の記念式典と公演会を行います。

- 日時：2016年10月15日（土）13：30～15：30（講演終了後、講師との意見交換会を予定しています）
- 場所：豊田市環境学習施設eco-T　2階　多目的室
（豊田市渡刈町大明神39-3渡刈クリーンセンター内 ）
- 公演外題：弁天娘女男白波（白波五人男）　足助川勢揃場
- 出演：萩野小学校４・５・６年生
- 入場料：無料
- 交通：お車は「萩野小学校校舎北側駐車場」か「ふれあいセンター前駐車場」をご利用ください。なお、晴天の場合は「萩野小学校運動場」を開放しますのでご利用ください。
- 主催：萩野子供歌舞伎３０周年記念事業実行委員会
- 問合：萩野小学校
TEL:0565-62-0214



その他の情報は、センターHPをチェック！

センター長のミライのフツーに向かって！

Uターン採用職員

山村地域の持続化に向けて「中山間地域在住職員」が採用され、半年間の条件付き採用期間を経て10月1日に本採用となった。民間企業での5年以上の実務経験がある１３０人もの応募の中から選抜された6人の精鋭が5つの支所に配属されている。

彼らが他の採用職員と決定的に異なるのは、配属された支所の管轄地域に居住し、地域住民の一人として地域課題の解決に取り組むことである。国の「地域おこし協力隊」は、３年間を上限として人口減少や高齢化が著しい地方の自治体に臨時職員として採用され、住民となって地域活性化に取組みつつ、その間に起業、自立して、その地域に定住することを意図した制度である。その意味で、彼らは、将来の雇用が約束された、条件の良い「豊田市版地域おこし協力隊」とも言える。

先頃、中山間地域採用職員とセンタースタッフの意見交換の場を持つことができた。守備範囲が広く多忙な支所業務に埋没し、フツーの職員になっていはしまいかとの心配をよそに、実に前向きで意欲的な彼らの姿勢に安堵した。数年先には、地域活性化のキーパーソンとして活躍しているものと思う。

都市と山村の支え合いにより「暮らし満足都市」の実現をめざすおいでん・さんそんセンターに、強力な助っ人が間もなく誕生する。彼らの民間企業での経験と中山間地域への移住の決断は、必ず生かされ、全国モデルとなる地域づくりができると確信している。



センター長
鈴木辰吉

豊田市 企画政策部 企画課　おいでん・さんそんセンター
〒444-2424 豊田市足助町宮ノ後26-2（足助支所2階）
TEL:0565-62-0610（直通）　FAX:0565-62-0614
MAIL:sanson-center@city.toyota.aichi.jp
おいでん・さんそんセンター　検索
開所時間:午前8時30分～午後5時（土日祝日・年末年始除く）

信頼できる制度を利用して、長く住んでもらえる方が見つかり満足しています。

鈴木善彦さん【下山地区】



「空き家は人が住んでいないと、どんどん傷んでしまうのがわかっていたので、以前から知人に紹介された人に直接貸していました。ちょうど入居者がいないタイミングで里楽暮住(りらっくす)しもやま(※)のメンバーの方から空き家情報バンク制度のことを聞きました」と鈴木善彦さん。話を聞いた1か月後の平成26年度9月には登録をしました。もともと貸すことに抵抗は無かったそうですが、市役所の制度だと聞いて信頼できると感じたことが、登録の決め手だったといいます。その3か月後には地域面談を行い、現在の入居者を選びました。「地域の草刈に参加すること、家の周りをきれいにしておくことをお願いしました。住み始めてから、草刈はもちろん、組のお付き合いにも積極的に参加していただいているので、地域の方も喜んでいます」と善彦さんは満足そうです。市と協定している宅建協会が仲介に入ってくれたので安心して賃貸契約ができ、書類作成の煩わしさも無かったそうです。入居者が補助金を申請して家の修繕をしたので、その手間もかかりませんでした。「直接契約をしていた頃と比べると、今のほうが家賃はちょっと低いですが、良い入居者が見つかったり、契約がスムーズにできたり、助かることが多いです。家賃そのものより、入居者の方が地域にとけこんで長く住んでもらえることを大事に思っているので、空き家バンクに登録して良かったと感じています」と善彦さんは喜んでいます。(※)下山地区で定住に取り組む団体



お母様と善彦さん

片付けは大変だったけど、よいきっかけになりました

星野英子さん【足助地区】



今の入居者とは、顔を合わせればあいさつしたり、野菜がたくさん取れればおすそ分けしたり、自然な感じで交流があります。地域の草刈りにも出てくれるし、田植えや稲刈りも手伝ってくれて助かっています。何よりお子さんの声が聞こえてくるのが賑やかでとっても良いですよ」と声を弾ませる英子さん。10年程前に近くに家を新築したため、嫁いで30年住んでいた家が空き家になったといいます。必要なものは全て新居に運び、2～3年は物置きのように使っていました。「いずれ息子夫婦が戻って来たときに片付けて家を修理しよう」と英子さんは思っていましたが、地域の定住委員から「空いている家があるなら、良かったら貸してもらえんかね?」と声を掛けられたことがきっかけで、誰かに入居してもらえば、風が通って家が傷まないと感じ、貸し出すことを考えたそうです。いざ片付けに取り掛かると、古着、陶器などの不用品が山のように出てきて、親戚に手伝ってもらい丸2日かかったといいます。「きっかけがないと、使ってない場所ってなかなか片付けできないじゃないですか。大変だったけど、貸すことにして良かったです」と英子さんは笑顔で話します。その後、大工であるご主人が床、台所、風呂場などを改修しました。現在の入居者との賃貸契約は2年間ごとの更新とし「息子夫婦が急に戻ってくることになっても困らないようにしています」と教えてくださいました。



貸している家の前で撮影

今回ご紹介した3名のお話の他、家主さんのための知恵が詰まった『空き家活用ガイドブック』を作成しています。



11月中旬発行予定

トヨタ生協さつまいも堀り体験開催

稲武 INABU

10月1日(土)、センターのマッチングにより始まったトヨタ生活協同組合の組合員向け山里イベントが、稲武地区富永町で開催されました。

今回は5月に組合員が植え付けた、さつま芋掘りです。早朝まで続いた雨も奇跡的に上がり、93名の方が静かな山間の村に集まりました。

家族で参加されている方がほとんどで、小さいお子さんも沢山いました。「さつま芋堀をするのが、楽しみだったの。やっとできたわ～。」「この芋、とっても大きいね!」「この芋はいつも本当に美味しいんだよね」など、思い思いに話をしながら、大きく成長したさつま芋を楽しそうに掘り起こしていました。

途中からは子どもたち対象に「一番大きな芋を掘れたの誰だ?ゲーム」が開催され、チャンピオンにはプレゼントがありました。





皆さん夢中で掘った後には、地元のお母さんやどんぐり工房の職員さんたちが作ってくださった豚汁や野菜の浅漬け、稲武の商店街『たばこ屋』さんのおにぎり、焼き芋など、お昼ごはんを楽しんでいました。

今回の企画はとても人気があるということです。土に触れたい方が増えているのではないかと思いました。(文／小黒敦子)

とよたの山里マッチングツアー開催

稲武・旭 INBU・ASAHI

9月29日(木)、CSR活動やビジネスで企業と山村をつなぐ『とよたの山里マッチングツアー』を開催しました。

名古屋市・豊田市の6社10名の企業担当者の方々にご参加いただき、山村地域のフィールドをワンボックスカーで巡り、視察していただきました。時折雨がぱらつく生憎の天気となりましたが、少人数で開催したこともあり終始和気あいあいとした雰囲気のなか行うことができました。



視察先は、ブルーベリーで農業参入と6次産業化を進める建設会社や、棚田の景観整備の担い手不足に悩む地域、企業研修を受け入れ活性化をはかる営農組織の3ヶ所。参加された方からは、「社内活性化や新規事業の参考にならないか今後検討したい」「この取り組みをクライアントに紹介したい」「当社に合わせた活動を提案して欲しい」などと嬉しい感想をいただきました。皆さまに山村地域の現状や課題を知っていただく機会となり、さまざまな可能性を感じていただけたようです。企業の活動が地域づくりの一助となり、都市と山村が支えあい互いに豊かになる関係を築いていけるよう、今後もセンターとして後方支援をおこなっていきたいと思います。(文／坂部友隆)





このマークがついている記事はおいでん・さんそんセンターが関わっています。